

小学5年生で津波を生き延びた男性が講演 事前準備の大切さを呼びかけ 【高知・黒潮町】



東日本大震災で児童・教職員84人が犠牲となった宮城県石巻市の大川小学校です。当時5年生で、津波に飲まれ生き延びた男性が黒潮町の中学生に「事前に準備すること」の大切さを呼びかけました。

只野 哲也さん

「起立してさよならって言うその時に大きな揺れに襲われました」

只野 哲也さん、22歳。11年前、東日本大震災のときは宮城県石巻市の大川小学校5年生でした。津波で児童74人・教職員10人が犠牲になった大川小学校。只野さんは津波に飲まれながらも奇跡的に助かりましたが、当時3年生の妹と母、そして祖父を亡くしました。

只野 哲也さん

「水に流されるとかではなくて、まるで大勢の人に踏みつけられるというか、何が起きてるか全然わからなくて息ができなくて苦しくて」

きょう黒潮町の大方中学校で講演を行いました。大川小学校の児童78人は地震発生から51分間、校庭で待機をして避難が遅れたといいます。

只野さん

「51分あったということは何かしら命を守る手段が取れたはずであって、それができなかったというのは人災に近いものになるんじゃないかと」

高台を目指して避難を始めても...

只野さん

「自転車置き場の通路、大人一人がやっと通れる幅なんですけど、ここから一列で避難するので78人いる子供が一斉に避難することはできなかった」

列の先頭にいた只野さんは津波を見てとっさに山に向かって走り一命を取り留めました。

中学3年生

「地震はすごく怖いし、いろんなものを失うので少しでもいろんなものを失わないように日頃から備えていきたいなと思います」

只野さん

「失ってから気づくこともあるので、失う前に想定して平時から考えて行動してもらえれば」